

## 第14回 能美市タウンミーティング

平成29年9月26日(火) 19:30~21:30

寺井地区公民館

### 【司会】

ただいまから湯野小学校区のタウンミーティングを始めます。

まず初めに、ご参加の皆様を代表しまして、石子町町会長様にご挨拶をいただきたいと思ひます。

### 【石子町町会長】

きょうのタウンミーティング、当初は8月8日に開催を予定していましたが、台風15号の影響できょうに延期になりました。延期になったので、はたして皆さん集まってもらえるのか心配をしていましたが、お疲れにもかかわらずたくさんの方にお集まりをいただきました。本当にありがとうございます。

市長さんが市長になられるときに、現地現場主義、それから、市民の皆様の声に耳を傾けることを基本的な姿勢として、これから市政を担うということを言われました。きょうのタウンミーティングは、まさに市長さんの心の発露としてやっているということです。

そして、きょうは湯野小学校校下のタウンミーティングをこの寺井地区の公民館ですることになりました。このことについて、若干違和感を覚えた方もいるのではと思ひますが、ここは、駐車場がたくさんあり、各集落からもほどよい距離で、適当な場所ではないかということで(この会場になったので)す。きょう、能美東西連絡道路を利用して来た方は本当にここまですーっという感じで到着されたのではないかと思ひます。東西連絡道路、いい道路ができつつあると思ひています。一刻も早く根上のほうの加賀海浜産業道路と結ばれるように願っています。やっぱり、あの道路とこの道路がつながることによって、能美市にとってもまた新しい可能性が出てくるのではないかと期待しています。

これは余談ですが、タウンミーティングは、市長さんの心の発露として開催されているわけですが、5月26日が第1回でした。それから12回にわたって実施して能美市全域をカバーしています。きょうは12回目ということで、地域を対象としたものがこれで最終回を迎えます。もちろん、いろんなご意見が出てくると思ひますが、それについて一つ一つ、切れ味鋭く解決策を示すというのはなかなか難しいわけでした、やはり、このタウンミー

ティングというのは市長さんが市民の皆さんと直接対話し、市民の皆さんの気持ちを感じ取ってもらうことに非常に大きな意味があるのではないかと考えています。

きょうは、12件のご意見や提案が予定されていますが、恐らく話される方々は将来の明るく元気な能美市に思いを馳せながらお話をされると思います。皆様方も、いろいろ考えていただきながら、これからの時間をともに過ごすことができればと念じています。どうぞ、よろしくお願いします。

#### 【司会】

次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

#### 【井出市長】

日中のお疲れのところを大勢の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

今ほど石子町町会長さんからいろんなお話をしてもらいましたが、きょうは各町会、町内会をずっと回って12回目、町会・町内会のタウンミーティングの最終回です。そして、そのほかにテーマ別で2回やっけていまして、14回目のタウンミーティングとなります。皆さんからもらったご意見、ご要望にしっかりとお答えをしたいと思います。

冒頭、私のほうから、今市がどんなことをやっているかということを紹介した後に皆さんとの意見交換を始めたいと思います。

このタウンミーティングは、私の政治信条である現地現場主義、そして、市民ファースト、これを進めていく上で市民の皆様方からいろんな意見を頂き、意見交換をしようということで開催していて、まさに礎という存在です。

能美市の最大の課題というのは人口減少問題です。今、能美市の人口というのは約5万人です。正確に言うと5万75人です。2040年には4万7,300人になってしまうという予想が出ています。これをもうちょっとふやせないかと、この減少を少しだけ食い止められないかということで、今のところ目標値は2040年で4万8,800人という目標を掲げています。今、5万人なのに何で4万8,800人なのだ疑問に思われる方がいると思います。それは、生まれてくるお子さんの数よりもお亡くなりになる方が多いので、こういう減少のカーブとなります。

加えて高齢化率、これは65歳以上の方が全人口に占める割合なのですが、今現在は25%です。4人に1人の方が65歳以上ということですが、2040年には32%になります。日本全体の問題として少子高齢化、それから人口減少という問題があるのですが、ここ能美市においても日本全体と同じ問題を抱えています。

4万8,800人という数字を掲げましたが、4万8,800人と言わずに今の5万人規模にできないかということで、今いろんなことをやろうとしています。その一つが、能美市の魅力を発掘、発信していくことです。発掘、発信をすることでどのような効果を期待しているのかといいますと、1つ目が移住定住の促進です。今の5万人規模を維持していくために、能美市にずっと住んでもらい、市外に移住する人を少なくし、それから市外から能美市に住んでもらう人をふやしていきます。

2つ目は、能美市というのは子育て環境がすばらしく、いろんな魅力がありますが、やはり働く場所がないと移住定住は促進されないので、企業誘致や地場産業の振興を図っていきます。

3つ目がふるさと愛の醸成です。例えば、湯野小学校を卒業して寺井中学校を出て、首都圏の大学に進学をしたとします。卒業後にそのまま首都圏の企業に就職をしようかなと迷っている子に、この湯野校下というのは本当に住みやすいところで、働く場所もあり、大学で学んだことをしっかりと生かせる場所もあるということを伝えて、Uターン、Iターンを促進します。この能美市の魅力を発掘、発信をしていこうと今一生懸命やっています。

こんなポスターをつくりました。この寺井地区公民館にも張ってあります。何でこんなポスターをつくったかと言うと、実は能美市（のみし）と書いてありますが、首都圏に行くと能美市（のうみし）と呼ばれます。先日も市役所に県外のお客様がお見えになりましたが、「能美市（のうみし）の市長さん、能美市（のうみし）の市長さん」と言われてしまいます。能美市というのは、住みよさランキングで4年連続ベストテン入りをしているのですが、魅力度や認知度は全国で400番台だったり600番台だったりします。あんまり知られていないのです。それで、能美市というものをもっとPRするためにこんなポスターをつくりました。このポスターを東京駅や大阪駅、京都駅、それから北陸自動車道のサービスエリア、それから金沢の観光客がたくさん来るところに張って能美市をPRしています。このポスターの下のところにQRコードをつけてありまして、携帯電話でかざすと自動的に能美市のホームページにアクセスするようになっています。今、このポスターのおかげで能美市のホームページへのアクセス数がぐんと伸びています。

それから、何で子供の笑顔のポスターなのかですが、能美市の観光特使で藤田誠さんという方がいらっしゃいます。能美市大成町ご出身のアサヒビールのコマーシャルをつくった大変有名な方です。写真を撮ってくれた人が梅佳代さんという能登町出身の方です。こ

の二人に能美市の魅力を象徴するような写真を撮ってほしいとお願いしたら、能美市というのは子育て環境が素晴らしいところなので、やっぱり子供の笑顔だということでこんなポスターをつくってもらいました。そして、ビデオもつくってもらいました。

今このビデオを全部で7本つくりまして、nomiチャンネルでも流しています。皆さんにたくさん見てもらって好評です。

皆さんもその能美市の魅力をいろいろ感じていると思います。今私が感じている魅力を紹介します。

まずは、子育て環境が素晴らしいです。保育園が新しくなったり、児童館が整備されたりしています。それから、福祉や医療の制度が充実をしています。それから、自然景観が素晴らしく、自然災害も少ないです。この間も台風が来ましたが、白山に守られてそれほど大きな被害が出ていません。それから、震度4以上の地震は10年前の能登半島地震以来能美市の中では観測されていません。それから、町会・町内会の組織がしっかりしています。能美市というのは84平方キロメートルとコンパクトな面積の中に74の町会・町内会があります。その町会・町内会長さんにいろんな働きをしてもらって、我々行政のほうもいろんなことをお願いしています。まさに、その町会・町内会長さんのおかげでこの能美市の行政もスムーズに運営しているので、本当に日ごろ感謝しています。

それから、文化や各種団体の活動が活発です。この寺井地区公民館、きょうもほとんどの部屋が使われています。それだけ市民のコミュニケーションが図られているわけですし、文化的な活動が盛んで、いろんな面での効果も出ています。

それから、ものづくりの町だということです。一部上場企業の工場が本当にたくさんあり、それから、世界に通用するような技術を持った会社がたくさんあります。

それから、交通アクセスがいいです。例えば、海側から行けば北陸自動車道があって、そしてタントの前の道は今福島の方に行くと、球場があって、T字路になっています。今、あそこに加賀海浜産業道路をつくらうとしています。そうしますと、小松製作所の粟津工場から小松空港の脇を通過して、タントの前を通過して、手取川の橋を抜けて、最終的に金沢港まで直結する道ができます。それから、辰口には加賀産業道路があります。加えて、来年の3月には吉原釜屋に能美根上スマートインターチェンジができあがります。それから、ご当地から小松空港までは車だと15分で行けます。それから、新幹線の金沢駅まで車だと約40分で行けます。考えようによっては、車があればですが、交通アクセスが大変素晴らしいです。これは、我々市民にとってはほかの市町に行くことの利便性が大変高まり

ます。例えば、金沢市の企業や加賀市の企業に勤めるのにも能美市というのは大変利便性  
がいいです。それから、工場にとっても物流のアクセスが大変すばらしいということで、  
これも能美市の魅力だと思います。

それから、特産品です。ご当地では九谷焼、お米、丸芋、お酒もあります。そして、観  
光資源です。九谷焼の陶芸村、温泉、いしかわ動物園等々があります。大学があります。  
寺井高校があります。また、各種ランキングも上位です。こういった魅力を私自身トップ  
セールスとして県内外に発信をして移住定住を促進し、地場産業を振興しています。

実は、いいことばかりではありません。

まずは厳しい財政状況で、福祉費がどんどんふえてきており、その財源をどのように捻  
出していくかというのが課題です。

それから、アセットマネジメントです。老朽化した施設を直していかなくてはならず、  
その費用が今結構負担になってきています。能美市内には上水道管が約430キロ張りめぐら  
されています。それを順次直していかないと皆さん方に上水道をしっかりと提供できません。  
あと橋や道路、それから市営の施設も直していかなくてはなりません。

それから、高齢者の交通手段の確保ということで、このタウンミーティングで一番ご意  
見、ご要望をもらっているのが「のみバス」です。停留所まで遠い、本数が少ない、行く  
までに時間がかかるということで、皆さんからたくさんご要望、ご意見をもらいまして、  
これは何とかしなければと思っています。

そして、広域連携の強化です。人口が減ってくると市単独では行政サービスができない  
ことがあります。それから、観光交流を進めていく意味では、広域連携をしていったほう  
がいろんな意味でやりやすいということを見ると、近隣の小松市や白山市や川北町、あ  
るいは金沢市との広域連携を強化していくことも必要だと考えています。

こういった魅力を発信していくことを片仮名でシティプロモーションと表現していま  
す。

具体的な事例では、市役所の1階ギャラリー、ここを活用していこうと考えています。  
9月の上旬から始めたのが九谷焼と水墨画展というコラボレーションです。ぜひ一度見に  
きてもらいたいです。今週末までで終わるのですが、やはり能美市というのは文化的な活  
動が盛んなのでこんな展示をしました。今後は能美市の特産品や企業の製品をここに並べ  
ていきます。

それから、「広報能美」。これも変えました。いろんな特集記事をここに入れていきま

した。その一つが「わがまち自慢」ということで、市内にある74の町会長、町内会長さんに出させていただいて自分の町を自慢してもらっています。ほかの町の方が見て石子ってこんなところなのか、泉台でこんなところがあったのかということ（を知ってもらえます）。逆に、地元の町内の人が見ることによって、湯谷にこんなところもあったし、佐野にもこんなところがあったのかという新たな気づきをしてもらえます。ちなみに、ここに8月号があるのですが、8月号には石子町が載っており、石子の魅力がふんだんに出されています。74町内会があり、1回につき3町しか載らないので、全部載るのに3年かかります。あいうえお順になっているので、湯谷はもう少し待ってもらうことになります。

そんな、市の魅力を県内外に発信をしていき、移住定住や、企業誘致を進め、交流人口を拡大していくということを紹介させてもらいまして、皆さんからのご意見、ご要望に対してお答えする時間に移りたいと思います。

#### 【司会】

それでは、“井出市長と語ろう「10年後の未来」”をテーマに皆様からご提案、ご意見を頂戴したいと思います。

進め方としまして、私からテーマを申し上げますので、それについて皆様からご発言いただきます。井出市長から返答や意見を述べさせていただきます。

#### ① 観光・市のブランド化（まちづくり全般）について

##### 【司会】

最初のテーマは「観光・市のブランド化（まちづくり全般）について」です。

##### 【泉台町民】

将来の子供たちや孫たちのために何を残してあげられるか、その視点に立つことこそが大事であり、今があり、10年後の能美市の姿があるように思います。

1、第2次総合計画のまちづくりのテーマが「市民が躍動し、地域が輝く能き美しきまちづくり」であり、サブテーマが「～暮らしやすさを日本一、実感できるまち～」ですが、そのための施策の進捗状況や評価をどう把握していくのか、数値目標があれば提示してほしいです。そこから議論が始まり、一歩があると思います。

2、能美市の魅力を実感でき、誰にでも自慢して話せることが大事なように思います。そのためにも、行政も企業も市民も、それぞれの立場で役割分担して努めることが求められていると思います。それは、今のタウンミーティングが第一歩で、コミュニティーの充

実こそが大切であると考えています。能美市の自然環境を維持しつつ満足度の低い能美ブランドや観光振興、商業振興を一層盛り上げていかななくてはなりません。

また、地域福祉や地域活動の充実、高齢者対策や定住化の推進、空き家の活用をこれまで以上に図る必要があります。そのための戦術の一つとして、若者、県内大学生や先端大学院大学生との協力や国際交流を表面化して推進してはどうかと考えています。

3、市民が住んでよかった、住み続けたいと思っているのかです。若者が意欲を持って働く場所があり、日々充実を感じているのかを問い続けることは決してマイナスなことではないと思います。むしろ、必要なことではないでしょうか。例えば、市長と能美市内外の若者の集いを企画し、考えや意見を聞き、議論をすることは無駄ではないと思います。また、子供たちが夢を抱き、元気に勉学や遊びに夢中になっているのかについて、教育の充実は大切です。安全安心を優先して確保するとともに、地域と子供たちがどう関わっているのか、いい関係で把握と誘導を進めていく必要があります。子供たちの地元教育の充実が大切であり、一層必要なことだと思います。自慢できる人物や産物のことをもっと掘り下げて学習するとか、子供たちを通じて親教育、地域社会教育も合わせて推進することが大切ではないでしょうか。市長のお考えと市政の方針等についてお聞きします。

#### 【井出市長】

まず、総合計画の件です。この総合計画、今年新たにつくりまして、その中には7つの政策分野と42の施策があり、目標指標は108項目あります。これを全部一つ一つ上げていると、大変時間が足りません。今、概要版を全戸配布しています。もうまもなくお届けできると思います。そして、総合計画の冊子は各町会に配る予定をしています。ぜひそこで一度ご確認をいただきたいと思いますし、市のホームページにも載っているので、見てもらえればと思います。

そして、つくるばかりではいけません。つくったものがしっかりと計画どおりに遂行されているのかも確認しなくてはならないので、市役所の中に行政評価システムというのをつくりました。それから専門家も含めてこの計画どおりに進んでいるのか、進んでいないものに関してはどんなところが足りなかったのか、新たにどんな政策をすれば計画どおりに進むのかということを随時チェックしながら進めていきたいと思っています。

それから、もっといろんな方の意見を聞いたらどうか、特に若い人の意見だとか市外の方の意見を聞いたらどうかというご提言もありました。まず、タウンミーティングですが、今後はテーマごとでやっていきたいと思っています。例えば、その一つに先端大の学生さん、

それから今年成人式を迎える方、それから、能美市に移住してきた方とのタウンミーティングをやれないかと、調整を始めています。それから、私だけではなくて、市の職員もできるだけ市民と接するような時間をつくったほうがいいので、実は市の互助会で、これは会社で言えば組合みたいところですが、ボランティアなどに積極的に参加しています。直接市民と触れ合う機会をふやしていろんな意見を聞いたり、例えばこういうタウンミーティングにも何人も参加したりしています。市のいろんな行事に積極的に市役所の職員も参加して状況を自分の目で確認をして意見交換をしていきたいと思います。

それから、3つ目はふるさと愛の醸成というご提言だったと思います。そのあたりは、私自身もふるさと愛を醸成できるように、今の小学生、中学生にも能美市の魅力をどんどん発信していきたいと思います。それから、教育というのは家庭、地域、学校、これが三位一体となって教育をしていくことが私は大変重要だと思っています。そんな中で、市民の有識者の方に学校に行ってもらって、能美市の魅力だとか歴史というものを子供たちに伝えていきます。今の子供たちにこの地域がすばらしいところだということを早いうちから認識してもらえるように、そんな取り組みをしていきたいです。

#### 【泉台町民】

先日、岐阜のほうで、全国のそういう団体が集まりまして、コミュニティースクールという発表会がありました。まさにそれを聞いていたら、さっき市長も言ったように学校、家庭、地域が一体になることが、今後の子供たちを健やかに成長させるのに大事だということいろんな指導を見せてもらい痛感しました。もっと能美市の全体、また石川県にもこういう風潮が広がればいいと感じました。

## ②子育て支援の充実

#### 【司会】

次のテーマは「子育て支援の充実」です。

#### 【佐野町民】

移住された方のことですが、先日、佐野町に子供さんがいる若い人が移住されて、その人たちに佐野へどうしてこられたのかとお話を少し聞いたのです。いろいろあったのですが、その中で、やはり子育て支援と医療制度の充実という言葉がありましたので、これを報告します。

湯野保育園の老朽化と湯野公園整備について、それから屋内遊技場について、提案、意見を述べさせていただきます。

まず、湯野保育園ですが、私も保育園の開設がいつだったのかと思って調べました。その中で、佐野町史の保育園の移り変わりについてちょっと読み上げてみたいと思います。

開設が昭和25年4月1日に、湯野小学校の農舎を改装し、湯野小学校育友会立湯野保育園ができました。これが施設の第一歩です。その後、開設が昭和29年8月、現在の位置に新築されまして、園名が寺井野町立湯野保育園と変わります。その後、昭和32年1月に園名が湯野校下三区立湯野保育園に変わります。その後、昭和47年4月に寺井町立湯野保育園という園名に変わりました。それで、最後に昭和52年に鉄筋防音工事、改築がされました。それからもう湯野保育園は40年近くたっていて、その間の中では何年かごとに改修工事は行われていると思いますが、やはり心配されるのは新耐震制度が昭和56年からなので耐震構造とかアスベストなどの安全対策が本当にとられているのか、そういうところも心配ですし、もう一つは、皆さん湯野保育園の中に入った方はおわかりだと思いますが、廊下にも本棚などが設置されていて、幼児への安全性が心配なので、その辺で湯野保育園を建てかえる案があるのかをお聞きします。

これも湯野が最後という感じで、寺井、長野校下は、私も寺井の保育園の中を見学しましたが、すばらしい園になっています。湯野校下に市議員がいないので最後になったのかと思います。

それと、裏庭にある湯野公園は、前は四季を通じて子供たちの遊び場になっていて本当にすばらしいところでした。最近の公園というのは、遊歩道に雑草が繁っており、子供たちが安心して遊べる場所ではなくなりました。子供たちが遊んでいても、遊歩道から、遊んでいる子供たちの姿が見えません。非常に危険です。今までの環境整備で少し自然観察もできます。学童もありますし、あそこで子供たちが楽しく自然観察ができればいいと思います。それに、防災の面を考えると、上のほうを整備してもらえたら、水害などがあつた場合に一時的な避難場所にできるのではと思います。その辺も検討してもらえたらと思います。

それから、もう一点、屋内遊技場ということで、これは多分保育士の方のご意見だと思いますが、現在保育園の親子遠足では福井方面のエンゼルランドや芝政等の県外の施設を利用している現状があります。また、近隣には小松に航空プラザもありますが、能美市内にはそのような規模の室内遊技場がありません。幸いにも、市内には辰口丘陵公園、いし

かわ動物園があります。湯野校下としての要望ではありませんが、能美市として県の施設の利用はどうしようもできないと思いますが、そのような施設をリンクさせるような方策はとれないでしょうか。小松の航空プラザは、1年中子供たちが安心して遊べる遊具施設になっています。能美市の外にはいろいろ遊ぶ施設があるのですが、室内で1年通して子供たちが安心して遊べるような形の場所がないので、そういうことも一つ何かつくってもらえないか、考えてもらえないかという要望です。その辺のところを一つ提案させていただいて、市長さんの言葉をいただきたいと思います。

#### 【井出市長】

まず、湯野保育園に関して、能美市には15の保育園があって、そのうちの7つが新しくなって、残ったのが8つです。そのうちの1つが湯野保育園です。湯野保育園というのは昭和52年に建てられて能美市内の中では4番目に古い保育園です。もちろん、新しいほうがいいのですが、そこは財源という問題があるので、古くなったところや傷んだところを毎年のように適時直しています。湯野保育園を新しくする計画があるのかですが、今のところはそういう計画はなくて、平成33年度に大規模改修をする予定です。その間も、やはり傷んでいるところや、手狭になったところがあれば適時改修を進めていきながら長く皆さんにご利用いただければと思います。

それから、湯野公園の件です。これは、遊具などは定期的に保守点検をしまして、平成24年度と27年度に点検をしています。グラウンドのほうも昨年整備をしまして、平成32年度にもう一回整備をする予定です。それから、周辺の森林部、木が生えているところも、適時、これは年に2回園路の清掃や除草を行っています。

それから、エンゼルランドや小松の航空プラザのような施設をつくるというお話ですが、これはなかなかできる状況ではありません。ただ、能美市には児童館がたくさんあります。実は能美市の児童館は市外の方が利用しているケースも結構あって、市外の方から能美市の児童館は本当に魅力的だということも聞いています。能美市にそういう大きなものが建てられればいいのですが、そこは現実的には難しいところでもありますので、市外の施設を利用してもらって、そして近くにあるいろんな施設を活用してもらえればと思います。

それから、補足ですが、今、能美市の和田山周辺に新しい博物館を建設する予定があります。これは能美市にある博物館と歴史民俗資料館の新しいものをつくらうという計画です。そこは、ふるさと愛を醸成でき、そして、博物館というと、今まで大体1回行くともう行かないというのが多かったようですが、何回も行ってもらえる、そんな博物館にした

と思います。（新しい）博物館のそばには防災センターといういろんな見学をする施設もあります。それから、その隣に新しく警察署ができます。そして、和田山史跡公園があるということで、あの辺一帯を能美市の子供たちが集まってきて学習したり、いろんな遊びができたりする、そんな施設に変えていきたいと思います。

### ③高齢者福祉の充実、生涯学習の推進、消防体制の強化について

【司会】 それでは、次のテーマに移りたいと思います。

テーマは「高齢者福祉の充実」「生涯学習の推進」「消防防災体制の強化」です。

【石子町民】

高齢者福祉のことでお話ししたいと思います。石子町の戸数は現在107軒です。高齢化率が旧寺井町の中で2番目に高い石子町では、10年後には65歳以上の方のみの家が46戸になるそうです。町の4割以上の家が高齢者の方のみになります。また、後期高齢者の75歳以上の方のみの家も26戸、我が家もその中の1軒になります。現在私は石子いきいきサロンの運営に当たっています。町会と老人会の協力のもと、月に一度公民館で開催される食事付きのサロンです。76歳から96歳の方17名、うちひとり暮らしの方3名が参加しています。10年後にはひとり暮らしの方の増加も見込まれます。運営するボランティア7名の高齢化もあり、いつまで続けられるかわかりません。そこで、増加すると思われる空き家を利用し、集まってお話や食事をしたり、お風呂に入ったりできるいきいきサロンの家はどうかと考えてみました。今のいきいきサロンでは利用者さんは完全なお客様状態です。いきいきサロンの家では、各自できることは自分たちでします。石子町の高齢者が割合元気なのは畑仕事をしているからでもあるので、畑の野菜を持ち寄ったりしてわいわい食事づくりをします。男性にももちろん、家事に参加、協力してもらいます。週に一、二回ほど家から出ることで認知症の予防にもなります。歩いて通える場所が重要だと思います。若い子育て中の親子も大歓迎です。私たちには16年間いきいきサロンを続けてきた経験とさまざまなボランティアの方との人脈もあります。今までは支える側でしたが、支えられ上手になりたいと思います。

市長さんへのお願いは、空き家のリフォームなどの市の金銭的なお手伝いが欲しいのと、空き家を貸してもらえる方には税金面の優遇などがあれば（良い）と思います。能美市には空き家バンク制度もあるとお聞きしました。空き家をお持ちの方が登録したくなるような、地域での「住み開き」を考える方にも利用しやすい制度にしていきたいと思います。平成

28年3月の介護保健法の改正により、地域の支え合いが重要になり、元気な高齢者が少し元気がない高齢者を支えることにより、支える側の生きがいにもつながるといふ包括支援のお話を聞きました。まさにぴったりではないでしょうか。この事業により、介護保険のお世話にならず健康寿命が伸びた、そんな高齢者が多くなることを願っています。

#### 【井出市長】

まさに、今の能美市の実態を表現した、そんなご質問でした。

今能美市は高齢者対策としていきいきサロンをしまして、公民館を中心に展開しています。そんな中で空き家を活用できないかというご提案なのですが、我々とする、安全で皆さんが集いやすい公民館を中心に活動してほしいと思っています。空き家を活用することになると、例えば、お風呂を改修するにも相当お金がかかります。民間のお風呂に入られるときに、高齢者の方が入るとなると相当整備が必要になってくるのではないかと思います。それから、多くの方が集まることを考えると、やっぱり公民館程度の規模があったほうがいいのかという気もします。せっかくのご提案なので、どんな助成制度があるかということも調べたのですが、今のところ、国や県の制度であるのは手すりを直したり、スロープを直したりという制度が実態としてあるぐらいで、空き家になっているような物件の、例えば、お風呂に入れるように全てリニューアルするとか、キッチンをきれいにするとなると、これは相当なお金がかかるので、残念ながら、今、国、県、市でも助成がありません。

ただ、空き家を活用することに強い思いがあるのであれば、能美市でも何か助成ができないか考えてみたいとは思いますが、それに見合った相当額の助成ができるかという、そこまではなかなかできないという実態です。

助成金以外の、高齢者支援センターのいろんな助言やサポートはしっかりとさせてもらうつもりです。具体的にこんなことをしたいという、もっと突っ込んだ話をさせてもらうことは、我々としては大歓迎なので、また高齢者支援センターにご相談してもらえればと思います。

#### 【石子町民】

各集落に公民館がありますが、公民館に対するソフト面とハード面の支援について、ちょっと要望めいたお話をさせてもらいたいと思います。

特に、小規模な集落にある公民館に対するソフト面の支援でお願いがあります。これか

ますます人口が減っていった高齢化が進んでいく中で、世代間の交流を盛んにしていく必要というのはますます強くなっていくのではないかと考えています。町内で住民が交流する場所としては、やはり公民館が拠点になるのではないかと考えていますが、私どもの石子町の高齢者の比率は現在約37%です。先ほど市長さんのほうから2040年の高齢化率が32%になると見込まれているということで、平野部にある集落でありながら、もう既にそれを超えている状況です。かといって、高齢者の方は皆さん生き生きと生活していることは間違いなく、特にそういう方々から公民館をもっと開放してはどうか、開放を希望したいと、そういう声が上がってきています。当然のことながら、そういう公民館を通常の寄り合い的な集会のケースだけに限らず開放していくということになると、そこで世話をする、管理をする担当者の方を配置しなければいけないとか、あわせて光熱水費などの支出も当然多くなることが見込まれます。町会の経費の中には戸数の多い少ないを問わない固定的な費用、当然公民館の維持管理費とか自衛消防費とか、総会資料の作成費などもあるわけですが、現在の石子町の1戸当たりの町民賦課金、いわゆる「まんぞう」と呼ばれているものですが、近くにある大きな町会と比べて、おおよそ4割程度高くなっています。これからますます高齢世帯が多くなっていく中で、この町内住民賦課金を上げていくのは厳しい状況です。

そこで、例えばですが、小規模な町会にあって町民賦課金が近隣の町と比べて相当高い町会で公民館開放を行うような場合に何かしらの助成あるいは支援をもらえるような、そういう制度の創設をご検討いただきたいのが1点目です。

それから、2点目は、ハード面の支援についてです。石子町の公民館は旧の寺井町が事業主体となって昭和56年に第3次の農業構造改善事業の一環でつくられたと聞いています。昭和56年の完成年度は新しい耐震基準の施行年度であったと聞いていますので、新しい耐震基準を満たしていると思っているのですが、能美市の地震安心マップでは避難施設として指定されていません。大丈夫と思っていますが、いま一つ不安な面も感じています。当然のことながら、日常的に使われている施設なので、避難施設の指定の有無に関わらず必要な耐震性は確保されていなければいけません。

それから、本当にこの地域というのは大きな災害がなくて非常にいいところと常々思っていますが、これからひとり暮らしの世帯もふえていく中で、例えば、大風が吹いてきそうだというときに、公民館を一時的な避難場所にするとか、あるいはいろんな活動をするに当たり、もっと部屋がほしいという話も出てくると思います。そうしたときに、能美市

内には木造の高層住宅、大きな建物を建てることのできる技術を持った会社があるとお聞きしています。そんな簡単に一般のお家のリフォームみたいにというわけにはいかないと思いますが、将来的にそういうハード面の施設の充実につきましてもご配慮いただけたら、非常にありがたいと考えています。

**【井出市長】**

まさに公民館の現状をつぶさにお感じになっているご質問でした。

まず、補助金のことなのですが、能美市としましては寺井地区の公民館全体にある一定額をお渡ししています。寺井地区の中には、恐らく同じような思いを持っている地区もあると思うので、まず、寺井地区の公民館の中で話をしてもらい、その一定額をどのように分けるかをご相談いただければと思います。その一方で、その補助金以外に、例えばいきいきサロンをした場合には、一定額の金額に加えて社会福祉協議会に参加している人数の分だけをそこに上乗せして助成する制度とか、そのほかにいろんな会合をした場合に助成する制度もあるので、そんなものをフルに活用して公民館の活動を活発にしてもらえればと思います。

それから、石子の公民館の耐震化は終えています。何で避難所になっていないかと言うと、能美市の防災計画の中で指定避難所と指定する物件は、洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、大規模火災というこの6項目をクリアしている施設を指定避難所と指定しているからです。この石子の公民館というのは、平屋建てで手取川の洪水があった場合に1メートルから2メートルの浸水の危険性があるという、浸水想定域でそんな指定がされているために指定避難所になっていないのです。ただ、手取川の洪水以外の場合では一時避難所の場所として使えるので、ぜひ石子の町内で、公民館を避難所としてどう活用していくかということをご相談いただければと思います。

**④公共交通の充実について**

**【司会】**

それでは、次のテーマに移りたいと思います。

テーマは「公共交通の充実について」です。

**【泉台町会】**

公共交通、第二次交通というのは、これは単なる市役所だけ、行政だけの問題じゃなく市民全体が考えるべき問題だと思っています。

それを踏まえて、今やっている、あまり評判のよろしくない、利用頻度も少ない「のみバス」について、年間予算というのは大体どれぐらい使っているかということです。それから、能美市以外、日本全国で二次交通の成功事例がいくつくらいあって、どれぐらいの予算規模で、どういう形でやっているのか、単なる行政だけなのか、いろんな人たちが協力してやっているのか。

最終的には、予算規模、資金の問題だと思います。この何年間、非常に評判の悪かった国の年金機構でさえ年間のリスクマネジメント経験者をトップに持ってきて、なおかつファンドマネージャーをその下に置いて、証券会社に指示しながらやっていました。実際には赤字を出したときもありましたが、年間通じたら10兆円の利益を出しています。そういう形で、民間のリスクマネジメントを経験した人を集め、あるいは、新たな事業を展開して単なる税収だけではなくてそれ以外でお金を集めることをお考えになっているかどうか、現状どういうふうにお考えなのか、聞きたいと思っています。

#### 【井出市長】

まず、「のみバス」に年間どれぐらいの費用をかけているかというご質問です。これは約8,000万円です。それから、能美市以外でどんな事例があるかということは、残念ながら、今どれぐらいの金額をかけていて、どんな成功事例があるかということをお全部把握していないので、改めてお答えをさせてもらえればと思います。

それから、税収以外の面で収益を上げられないかということですが、一つはふるさと納税の返戻品をどうしていくかということだと思います。去年は3,000万円の収入がありました。今、返礼品を見直していきたいという思いがある一方で、国から、返礼割合を3割以下とするという通知がありまして、実は、ちょっと苦勞をしているというところです。

もう一つは、能美市というのは交流人口、いわゆる観光という面での収入が少ないのではないかと思います。やはり、多くの方に能美市に来てもらい、能美市の施設を利用してもらう、あるいは宿泊をしてもらう、お土産を買ってもらうということが必要なのではないかと思います。観光ビジョンを、今まであったものを1年前倒して見直しする予定にしています。今後、審議会（観光戦略会議）を設置する予定であり、そこにいろんな有識者の方に入ってもらい、交流人口を拡大し、そして税収面以外での収入に寄与できるような、そんなことに取り組んでいきたいと思っています。

## ⑤健康づくりの推進について

### 【司会】

次のテーマは「健康づくりの推進について」です。

### 【泉台町民】

健康づくり推進に関して提案と言いますか、要望になると思います。職業は歯医者です。

今、日本では、治療費が莫大に膨らんでいまして、多分、厚生労働省はひいひい言っていると思います。それを縮小するためには病気にならないのが一番得策で、そのためには予防をしなければいけません。能美市には旧寺井町、辰口、それから根上にそれぞれ（総合）病院が一つずつ建っています。その病院では、健康講座というのが必ず開かれています。それを聞いている人たちは病院に来た人たちであり、実はもう既に患者なのです。もう悪くなってしまっている人たちがその話を聞いて、ああ自分はそうだった、やればよかった、ああ残念と思っています。そうすると、日ごろちゃんと歩いていてご飯も食べている人たちが重症化しない、ひどくならないためには、病院ではなくて、地域で健康講座が開かれるべきです。それに出てくる人（講師）たちは、（参加者の）顔見知りの先生、あるいは顔見知りの看護師さん、顔見知りの薬剤師さん等で、（内容は）簡単な言葉で眠たくなならないようなお話をされる。それも長い時間ではなくて、短い時間にひょいに行って聞いて、なるほどねとわかるような、短い時間で身近なテーマ、例えば、認知症ですとか、今話題の骨粗鬆症、あるいは生活習慣病などがいいと思います。その辺の放っておいては将来命に関わる病気をできるだけ軽症のうちに、あるいは発症させないように何とかできないかと思います。

そのためには、これは簡単なことだと思うのですが、地域には必ず歯科医師会もあれば医師会もあれば、その他いろいろ医療に関係する支部団体が存在しますので、そこと相談、タイアップしてできるだけ頻度高く、そういう出前講座を開いてもらえればと思います。

私自身も小松の病院に勤めていまして、院長命令で出前講座を実際に行い、もう始めて5年ぐらいになります。最初は話を聞いていただいているのですが、ものの15分で皆さん寝てしまいます。もう麻酔かかったようなものですね。それはなぜかというのを、健康講座をしたその医者、看護師、薬剤師等がみんなで考えたら、結局使っている言葉が難しく皆さんよく理解ができないので、途中で話がおもしろくなくなって寝てしまうのではないかと思います。例えば、私は歯医者なので、「歯周病が全身の疾患に悪影響を及ぼして命が危なくなります」と説明しますが、歯周病って何かもよくわかっていないのでみ

んなぴんとこないのです。「歯槽膿漏の重症のやつは血管が詰まったり、心臓が「うっ」となったり、あるいは糖尿病が悪くなったりするので命が危なくなるのですよ」としゃべると、なるほどねとなります。そういう出前講座をぜひとも企画していただければありがたいと思います。

#### 【井出市長】

まず、先ほど能美市というのは住みよさランキングで4年連続ベストテン入りしているということを紹介しましたが、実は今年、健康づくりという面で、全国に約1,700の市町村がある中で能美市は第30位、健康づくりが大変進んでいるという評価を厚生労働省から、もらっています。もちろん、県内トップです。今、ご指摘の出前講座ですが、例えば、市のほうでは、「青壮年期からの生活習慣病予防」や、「食事バランス塾」、「知って得する子供の健康」というのをテーマに健康推進課の職員が講師になっていろいろしています。

それから、昨年から能美市立病院、寺井病院、芳珠記念病院と連携して、例えば、お医者さんによる「生活習慣病」のお話や（病院スタッフによる）「転倒予防・骨粗鬆症」とか「脳トレクイズと認知症」といったテーマでいろいろと実技を交えた教室を設けていまして、今のところ、おかげさまで多数のご参加をいただいています。もし、こんな講座を設けたほうが良いということがあれば、させていただきますので、またいろいろご助言をいただければと思います。

#### ⑥農業の振興について

##### 【司会】

次のテーマに移りたいと思います。テーマは「農業の振興について」です。

##### 【湯谷町民】

簡単に言いますと、農業に魅力がないのはなぜなのかということです。一番の原因はあんまりもうからないということです。それで、能美ならではの新しいアイデアをどこかで誰かが考えて、どこかで相談して、こんなことをやってみようかという新しい視点で、もうかる、農家をやっていてよかったなと思うような方向へもっていく必要があると思います。どうしても後継者が育たないし、市の新しい総合計画の概要版を見ますと、ちゃんと後継者の不足と書いてあります。また、農林業の6次産業化という文言があります。これについて、具体的にどういうイメージなのか知りたいですし、少しでも農業を魅力ある仕事だなと思うような方向にお持ちいただければ振興につながると思っています。

## 【井出市長】

まず、私自身も食の安全、食糧自給率を高くすること、それから、自然景観という意味でもこの田園風景は守っていかなければならないと思っています。

能美市独自の制度というお話の中では、例えば、生産調整特別助成金や地域振興作物特別助成制度がありまして、石川県の中でも能美市は手厚いものだと把握しています。それから、水稻以外のものをつくるという場合でも、やはり、能美市独自の野菜をつくって、それを強化していくということも必要だという思いがありまして、今年度、丸いも、カボチャ、タマネギに少し助成金の上乗せをしています。そのおかげもあり、JA能美がタマネギの栽培をふやしていくという新聞の掲載もありました。我々にとっても大変ありがたいなと思っています。

それから、石川県と自動車メーカーと連携して効率化に取り組んでいる大型大規模農家さんもいます。また、6次産業に取り組んでいただいている方に助成する制度も設けていまして、ご利用いただければと思います。

そして、今月号の「広報のみ」、牛島の町会長さんなどが載っていますが、今月号は「農で輝く女性たち」ということで、7ページで展開しています。ここ、ぜひまた読んでみてもらえればと思います。本当に頑張っている方をこうやってクローズアップして、そして、この頑張っている方をどんどん、モチベーションという意味で支援していきたいと思っています。特集を読んでもらった方も、若い女性がこんなに頑張っているのかということ、また勇気づいて、農業に携わってみようと思う方が一人でも多くなればと思います。今後、お助けするというだけでなく、こうやって頑張っている方をクローズアップしていくことで、農業をもっともっと元気にしていきたいなと思っています。

## ⑧人や自転車にやさしい道路の整備について

### 【司会】

テーマは「人や自転車にやさしい道路の整備について」です。

### 【湯谷町民】

昨年4月に東西連絡道路が末信まで開通し、12月には和田山線の交差点に信号機が設置されました。それで、交通量もふえ、利便性が高まっていますが、湯野小学校交差点から東側300メートルは道路幅が狭く、歩道がないために非常に危険な状態になっています。一日も早くその歩道が欲しいと思います。

【井出市長】

私も県議会議員時代からそれは把握してしまして、地元の町会長さんと一緒に南加賀土木事務所に何度も通っています。危険なこともわかっていますし、本当に一日も早くそこに（歩道を）つけられるように、市長としても県のほうに要望を続けていきたいと思っています。

⑨歴史、文化、伝統の継承について

【司会】

テーマは「歴史、文化、伝統の継承について」です。

【石子町民】

幼いころより和田山でサツマイモをつくっていました。まさか、そこが古墳だと思わずに、土を耕し、駆け回っていました。

そこで、和田山のことについての10年後の未来を、市長と語ろうということで、和田山のことについて少し発言します。

和田山史跡公園の維持管理の充実とアドプト制度の導入についてです。アドプト制度というのは、養子縁組、公共施設里親制度、行政と市民が共同で行うまちづくり制度、そういう意味です。和田山史跡公園、これは国指定ですが、行ってみると、用地・施設全体で約6億7,000万もの巨費をかけて過去に整備されたものが、非常に粗末に扱われている感じがします。山頂のほうの古墳群やそこに至る園路を見ると、よりその感を強くします。特に、「さらい」に近い9号墳、和田山城跡と14号墳がある丘は和田山末寺古墳群の物事の始まりとも言うべき箇所であり、整備当初は明るくて非常に歩きやすい園路が巡らされ、それをたどりながら解説板を読んで理解を深めることができました。絶好のウォーキングコースでもあり、周囲は雑木が払われて、白山のすばらしい眺望点になるとともに、旧和田山荘や県道和気寺井線から史跡の存在が確認され、人々をそこへ誘ったものです。

ところが、現在は決して見晴らしがいい、すかつとする、そんな状況ではありません。そこで、整備当時の姿に戻すとともに、それができたところについては地域住民を募って軽作業的な維持管理に当たる、いわゆるアドプト制度を導入していくことがよいと思います。大人だけでなく、児童生徒を含めたグループづくりができれば、格好のふるさと再発見、学習になると思います。1,700年も前に暮らしていた、古墳時代に、その人々が残した印である古墳や戦国を勝ち抜こうと築かれた城の跡、一向一揆の和田山城のことですが、

既存のものとして守ることは行政だけの仕事ではなく、地域住民も主体性を持つてできる役割を果たす、そんな意識が大切と思います。

今年3月に公表された能美古墳群整備基本計画では、和田山史跡公園の再整備にも触れられた大変な力作ですが、箇所ごとの具体的な優先度までは記載がありません。今から約5年後、平成35年には加賀国立国1,200年、能美郡1,200年など、そういう節目を迎えます。全国から人々が訪れる「さらい」から9号墳が見えるようにし、登り道を明るく整備すれば、それにより人々を9号墳へと誘うことができると思います。さらに、9号墳から白山を初め南加賀の山野を眺望できるようにしてほしいです。まずはそのことをぜひお願いします。

#### 【井出市長】

アドプト制度というのは、鍋谷川の整備にも使われていまして、本当に効果が出ている制度です。ちなみに、その和田山周辺の維持管理費に年間約1,000万円を使っています、さらにきれいにしていくという面では本当にありがたい申し出です。その古墳、和田山周辺にもっと人を誘うようなことをできないかという話ですが、和田山史跡公園のそばに博物館をつくる予定です。そのことによって、能美古墳郡全体に多くの市民、そして市外からも来てもらえる仕掛けができないかと思います。

それから、5つある古墳群を散歩してもらえるように、ちょっとまだ決定事項ではないので詳しくは言えませんが、携帯電話を使ってガイドンスを聞きながら回ることや、自転車を置いて、周辺を回ることができるようにすることを今検討し始めています。そんなことをして、多くの方々に古墳に親しんでもらいたいと思います。やはり、多くの人が古墳に入ってくれば、ここは踏み固められてきれいになっていくのだろうと思います。

それから、先日、古墳ウォーク（能美古墳群「古代ロマン・ウォーク」）を開催しました。その古墳ウォークというのは、古墳に親しんでもらう一環として開催したのですが、私も一緒に参加して歩いたら、秋常山がこんなにきれいになっているのを知らなかったと言う方が何人もいて、イベントを開催してよかったと思いました。

それから、博物館をつくることで、ハードだけではなく、その博物館を中心にいろんなイベントの開催もしたいと思います。古墳祭りという名称にするのか、何祭りという名称にするのかはこれから考えていくべきところだと思いますが、いずれにしても、その古墳をもっと大事にして多くの方に親しんでもらおうと思っているので、そうなると、やはりきれいじゃないといけません。せっかく来たのにこんなふうにしかなってないと言われる

のも我々には大変残念なことなので、ぜひ、そのアドプト制度を考えさせてもらい、ご協力してもらうことをまた相談させてもらいたいと思います。

#### ⑩九谷の里づくりについて

##### 【司会】

それでは、次のテーマに移ります。

テーマは「九谷の里づくりについて」です。

##### 【佐野町民】

九谷の里づくりということで、質問したいと思います。

全国的に見ても伝統産業の後継者不足という問題は、以前にも増して深刻化しているのが現状です。地元九谷焼に関しても例外ではなく、本当に深刻な問題として押し迫っています。昔のことを言うと笑われるかもしれませんが、自分たちの小さいころと言ったら、隣近所がみんな九谷焼に従事していました。家内工業としてもしていたわけです。ところが現在は、職人の数が激減し、さらに高齢化しています。若者の従事者が非常に少なく悩める問題だと思っています。近くには九谷焼技術研修所がありますが、そこには毎年三十数名の卒業生が出ています。しかし、地元にとどれだけ残るかという、決して数的には多くないと思います。その方たちも現実は何年か地元にも、自分のふるさとのほうに帰っていったり、また金沢のほうへ仕事を見つけて流れていったりという現状です。佐野町では、少しでも地元で卒業生が残るような場ということで、空き家を安い家賃で提供し、職場を提供しています。これから九谷焼が発展していくためには、やはりこういった研修生に頼る部分が多いと思います。それで、その人たちが地元に残るには、やはり受け入れる体制づくり、または養成の場なのでそういったものを設けていくことが必要ではないかと思っています。

##### 【井出市長】

私も家業が茶碗屋だったので、九谷焼業界のこと、陶磁器業界のことはわかっているつもりです。ご指摘のように生活様式の多様化、そして海外の安価品がどんどん入ってきていることで全国の陶磁器・九谷焼業界も昔ほどの賑わいがなくなっているというのが現状です。

せっかく九谷焼技術研修所があるので卒業生をもっと活用する、そのこともご指摘のとおりでして、私もその状況はわかっています。それで、6月の市の予算で九谷焼技術研修

所を卒業した人を受け入れる工房をつくれないう調査費をつけています。それは具体的には、ご存じだとは思いますが、あの九谷焼技術研修所というのは県の建物です。そこを卒業した人の一部を受け入れる自立支援工房というのがあります。そこは数が限られています。それから、一定期間いると出ていかななくてはならないので、そういう人たちの受け皿として能美市のほうでも新たな工房をつくれないう、今検討し始めていますので、もう少しお時間をいただければと思います。

**【佐野町】**

もう一つお願いします。

これから、ちょっと唐突な話で自分の意見になるのですが、市長さんの頭の片隅に置いてもらえばいいかと思います。

研修所の生徒が卒業されて地元にとどまって支えていくという、それも大切なのですが、本当は地元の人が九谷焼に従事する、そういう場をつくっていくのが大切だと思います。というのは、いろんな取り組みをしても、やはりこの底辺拡大がしっかりしていないといけません。例えば、寺井高校に工芸科を設置するとします。それで、若い世代が九谷焼に従事します。そのまま職人として活躍する場もあるのですが、さらに九谷焼技術研修所に行ったり、また美大等、そういう専門のところに行かれたりして、それがまたUターンして自分たちの地元に戻ってきたりする。このように、九谷焼をさらに盛んにしていくのか、繁栄させていくようなレールをつくっていかなければ、若者が、底辺が拡大していかなければ、九谷焼の未来は難しいと思います。

**【井出市長】**

はい、ありがとうございました。

⑩適正な土地利用、U I ターンの推進について

**【司会】** それでは、次のテーマに移ります。

テーマは「適正な土地利用、U I ターンの推進について」です。

**【佐野町】**

佐野町が今年始めて実施した町民アンケートで出された匿名の方のご意見です。その文面を読みます。

「佐野町の新規の住民を受け入れる土地が少なすぎるので、子供が少なくなってきました。来たくても来られない感じです」。同じ佐野町の町民としてある程度本音が透けて

見える感じがします。私は、寺井とか粟生とか大長野とか、それから隣の湯谷、こんなところでは新しい団地の造成で地区の住民がふえて子供の遊び声も聞こえ、町に勢いを感じます。それに比べて今の佐野はどうですか。寂しい限りです。こういう意見ではないかと解釈しました。

それで、調べてみました。きょうお集まりの湯野校下の子供たち、小学生の数です。湯野小学校では、今から30年前、昭和63年、全校児童が339人でした。今年は309人です。30年間に30人児童が減りました。佐野の児童はどうかといいますと、30年前は全校児童が154人です。現在は86人です。佐野町では、半分強に減っています。

湯野小学校における佐野地区の児童の割合を調べてみますと、30年前は4割強でした。今年は2割強です。湯野校下は4つの集落があるのですが、佐野は4分の1になってしまったということです。これが現状です。

そうは言うものの、今も佐野地区には市営住宅のみならず、一戸建ての住宅もぼつぼつと出てきています。先日、移ってきた四、五人にちょっと移ってきた理由を聞きました。能美市は住みやすい、子供を育てやすい、小松に近く、金沢にもそんなに遠くなく、職場が小松、金沢にあるので、職住接近で非常に選びやすかったとのこと。住んでみてどうか、何か要望はないかというような質問をしてみましたら、特にないとのこと。今後も住み続けたいと（言っていました）。もうちょっとゆっくり話していたらあるいは本音が出たかもしれませんが、一応こういう答えがありました。

では、どうして佐野地区では新しい住宅の建設、あるいは宅地造成ができないのかというのを寺井の開発業者に聞いてみました。それによりますと、佐野は出物がまず少ないそうです。出れば、個々に話をしてどんどん住宅を建てることができます。2番目は道幅が狭い、3番目は共有地が多く法律関係が難しいとのことでした。こんなことがありまして、佐野を改修するのは非常に難しい現状があるということでした。

そこで、私の質問と提言です。

まず、質問です。井出市長は冒頭に、能美市の名前を含めて発信し、Iターン、Uターンを促進させるとおっしゃった気がします。Uターン、Iターンを促進させるために、能美市内で何を優先してやるのかということを知りたいです。

それから、これは提言なのですが、行政と言いますか、能美市はもっともっと前に出てきてもらって、5年後、10年後の佐野町など、集落ごとのアウトライン、都市計画、あるいは、素案などをつくってみてはどうでしょうか。まず、佐野なら佐野、湯谷なら湯谷と

集落に主導させて、能美市が側面からサポートして、長い目で見て、ハード面の集落、まちづくりをそろそろ考えるときではないかなと思います。74集落あるそうですが、それぞれ事情が違うので、これは大変だと思います。でも、そろそろ始めても決して遅くはないのではないのでしょうか。非常に難しい問題ではあるのですが、そういう提言をさせていただきます。

#### 【井出市長】

まず、能美市内においてどういったところを充実させていくかというお話ですが、それはまさに子育て支援です。それから、高齢者、福祉対策、ここを充実させていくことだと思います。具体的に言えば、公共交通をどうするのか、それから、若い人たちにもっと移り住んでもらうためにどんな魅力的な政策をつくるのかです。子育て世代に移り住んでもらえるような政策、それから、高齢者の皆さんが安心安全にずっとここに暮らしてもらえるような施策を充実していきたいと思っています。

それから、都市計画について、実はこれは総合計画に書いてあり、時間の関係上つぶさに今ご説明することは控えさせていただきますが、ぜひ総合計画を見てもらえればと思います。74の町会ごとにやればいいのかというご提言もあるかと思いますが、私は、それはなかなか難しいのではないかと思います。例えば、小学校は湯野校下であれば湯谷町にあります。それから、泉台には観光資源ということで九谷陶芸村があります。それぞれを皆さんで共有していくということが私は大切なのではないかなと思っています。佐野だけをどうするか石子だけをどうするかということではなくて、それぞれのゾーンの中でその特徴を伸ばしていくことが最終的に能美市全体の発展につながるのではないかと思います。そのあたりもこの総合計画に記載してあるので、もしよろしければ、総合計画を読んでいただくということでご説明にかえたいと思います。

#### ⑫その他について

##### 【司会】

最後は「その他」のテーマになります。そのほか、ご意見ある方、お願いいたします。

##### 【石子町民】

空き家対策について提案というか、お話ししたいと思います。

老朽化が進んで、むしろ取り壊したほうが合理的な空き家が大変多くあるように思われます。私どもの石子でも、元住居でしたが現在、人が常時住んでいない家が9戸ほどあり

ます。そのうち6戸はもう取り壊したほうが良いという感じの家です。ただ、最近ずっと地価が下落していますし、取り壊す費用のほうは上昇気味になっているということで、取り壊してそれを売ったとしても取り壊し費用すらまかなえないケースが多くなっているのではないかと思います。

それに加えて、更地化したら、固定資産税の減額措置が廃止される負担増もあって、なかなか取り壊すべきと思われても取り壊しが進まない現状にあります。

能美市のほうは単独で上限20万円の解体補助制度を持っています。かなり先進的な制度のようですが、とても十分な制度になっているとは思えません。

実は国のほうで「空家等対策の推進に関する特別措置法」というのをつくってあります。そこでは「市町村が空家等対策、計画をさらに推進できる」という規定になっています。

“できる規定”というところに国の消極的な姿勢がよく見えます。その空家等対策計画、それに基づく対策の実施に要する費用については、法律の中で補助制度とか交付税制度などによって財政上の措置を講ずるということになっていますが、国の考える計画そのものに所有者が取り壊した場合の費用助成というのは全く予定されていない状況です。要するに、大変消極的な法律で、取り壊したほうが合理的な家について、特定空家に認定、かつ、代執行により除却するという制度になっています。そこまでにたどり着くには相当な期間が必要になってきます。その間は、ずっと周囲に不安感、迷惑感を及ぼし続けますし、やっぱりその地域の価値、ステータスそのものに低下をもたらします。そうすると、結果的にまた固定資産税の評価額も下がってくるのではないかと思います。

これは本当に全国共通の課題です。他の市町村とも協調して、例えば、取り壊し費用が土地の評価額を上回ってしまう場合、その差額、全額とは言いませんが、相当部分を国県市町村が協調して助成するような、そんな制度、国には現金を出していただいて、県市町村の分は交付税上の基準財政需用額に算入していただくのはどうでしょうか。

それから、更地化の後、宅地として売却したいという旨を市町村長に届け出た地主さんに対しては、固定資産税の減額措置を継続するようなことができないでしょうか。その場合には、取り壊し費用が土地の評価額を若干下回っている、もしくは儲けが少ない家に対しても年限を区切って減額措置をやってもいいのではないのでしょうか。そういうことを、ぜひ、市町村、あるいは県を巻き込んで国のほうに強く要望していく努力をぜひお願いしたいと思います。

**【井出市長】**

恐らく国縣市、全部制度を調べられた上でのご質問だと思います。

空き家というのは、私は2つの問題があると思います。要するに、老朽化して危険な空き家をいかに早く取り壊すかという問題と、もう一つは、旧の集落にある住める空き家を放っておくと、結局集落の中のコミュニティーが失われていく問題、この2つがあると思っています。（後者の場合は）住むことによって空き家が活用され、地域のコミュニティーが復活します。

実際にその助成金が少ない、それから、（空き家対策に）手を出そうと思っても法律上で縛られていてなかなか出せないというのが現状です。能美市の空き家というのは、ちょっと古いデータですが、約400軒あります。それが十分利活用されているかというところまでできていません。そんな中でのご提言ですので、これはしっかりとこちらで1回勉強させてもらい、そして、まさにご提言のような、空き家の有効活用、あるいは古くなったものの取り壊しが速やかにできるようなことを考えていきたいと思っています。

#### 【石子町民】

先ほどの、公民館のハード、ソフトの話ですが、若干質問の趣旨とお答えが食い違っている部分がある気がします。またこの辺は戦略室のほうにもう1回、再度説明し、お考えをいただきたいと思っています。

#### 【井出市長】

わかりました。長時間にわたり、ありがとうございました。皆さんから熱心なご質問をいただいたので、私の答弁も長引いてしまい、あつと言う間に2時間がたちました。きょうの14回目のタウンミーティングも、たくさんの意見をいただきました。こういった会をずっとやっていきたいです。今回は町会ということで、皆さんお声がかかったわけですが、今後は、例えば子育て世代、九谷焼業界、先端大学の学生さんなど、そういったテーマごとに掘り下げてタウンミーティングをしながら皆さんと意見交換をしたいと思っています。それから、運動会やいろんな総会にも呼んでもらっていますので、そんなところでまた一献交えながら、膝を交えてお話させてもらえればと思っていますし、家もこの近所です。この辺を歩いていることもあります。そんなときにもお気軽にお声がけしてもらい、いろんなことを教えてもらい、そして意見交換もさせてもらいたいと思います。こちらの長引いた答弁がありまして、皆さん方から十分にご質問をいただけなかったかもしれません。おわびを申し上げまして、御礼とさせていただきます。

きょうは、どうもありがとうございました。